

### わがまち紹介 活動報告

#### 西陣織会館及び 京都市考古資料館の 訪問・見学報告

西陣織会館2階では、機織り西陣織工芸士さん達が待っていて下さいました。工芸士 山口明子さんは、ジャカード機で経糸を上下させ、昔ながらの紋紙を用い手機(てばた)を使って立体感と高級感が際立っている帯を織りながら説明して頂きました。



爪搔本つづれ織の実技  
(爪を見せて頂く)

手織りならではの「良い風合い」が出せ、緯糸の色数に制限がないため、「複雑な生地組織」が織れると数に制限がないため、「複雑な生地組織」が織れると数に制限がないため、「複雑な生地組織」が織れると

綴織の正式名称を「西陣爪搔本綴織(つめがきほんつづれおり)」といい、日

る鏡を見ながら仕上がりを確認しての職人技で織っていきそうです。

隣りの西陣爪搔本綴織では、図案を経糸の下に置いて、爪で緯糸を掻きよせて織る高度な技法「西陣爪搔本綴織」も実技で説明をして頂きました。手の指の爪も見せて頂きました。

本美術織物の最高峰と呼ばれています。「綴織(つづればた)」という人の手足のみで操作する織機を使用し、「爪搔」という伝統的な技法で文様を織り上げ、爪で織る芸術品とも呼ばれています。



友禅染の下絵の実技  
織細で緻密な手作業によって  
絵画のように描き染めていく  
日本が誇る染色技法

天野朝春さんの友禅染の下絵の実技を見せて頂きました。

友禅染が白い生地の上に染料で絵を描くごとく模様を染め出すのに対し(後染め)、西陣織は染められた糸を使って布を織ります(先染め)。染め模様を作る友禅染、織り模様を作る西陣織の違いはここにあることが、よくわかりました。

### 会員だより

#### 伝統工芸の宝庫 西陣織会館を見学して

12月8日、京都地下鉄今出川駅で下車、少し風はありましたが、底冷えもなく会館に着きました。



本綴れ織り 帯の実技  
「手織りの最高峰」と  
言われる織りもの

西陣織は、職人の豊かな感性と高度な技術が注ぎ込まれるため、世界にひとつだけの作品との事です。西陣織の緻密に計算された紋様の美、千年以上の歴史ある高級絹織物は、今後も保護・育成され続けなければならぬと思えました。

10年の経験者の爪は切りそろえられ磨かれた、手そのものが美しく芸術品に見えました。  
手書き友禅作家のお名前が朝春で、親も同じ作家で、この姓名は私、一人です。この性名は私、一人です。この性名は私、一人です。この性名は私、一人です。

昔のことです、小学校で蚕の勉強がありました。

昭和、平成、令和と時が過ぎ、着物はあまり着なくなりりましたが、折々の節目に、御宮参り・入園・入学・成人式・結婚式等はなやかに着飾ります。



手書き友禅の作品  
絵画的な美しさに感動

#### メガネリサイクル活動に 皆様のご協力に感謝!!

2022年は、コロナ感染者が急増し、色々な面で行動制限を受ける中、高槻市民の方々が、使用済みメガネを「高槻市民公益活動サポートセンター」に持って来て下さいました。

11月末で纏め、役員が一個一個アルコールウエットティッシュで消毒し、ノンアルコールウエットティッシュで汚れをとり、乾燥させ、めがね拭き用布で最後の仕上げをし、一個一個エアキャップ(プチプチ緩衝材)で包装し、段ボール箱に入れました。



12月8日に、日本スリランカ友の会関西会長 藤井健三様宛に郵送しました。

日本スリランカ友の会関西の活動は、コロナ禍の中でも活動を中断することなく活発に活動を継続しておられます。

12月11日付、藤井健三さんから礼状を頂きました。日本スリランカ友の会関西は、大阪・江戸堀にある眼鏡販売店「R-GLASS」さんにて度数チェックや整備をしてリフレッシュメガネにして頂き、新しい年になってスリランカに渡航する方に託送して、メガネを必要とするスリランカの方に寄贈されます。

高槻市民でメガネを提供して頂いた方々有難う御座いました。

今年も継続しますので会員の皆様ご協力お願いします。

#### VG 槻輪 会長 大岡成一

次、大正3年に完成した旧西陣織物館であった、京都市考古資料館(有形文化財)に行き、館のボランティアガイドの西井なほ子さんに2階の常設展示室の中を本当にわかりやすく説明して頂きました。質問事項にも展示パネルの所にまで案内し説明をして下さいました。

京都市全域が、歴史遺産の地域ではないかと思いました。

本綴れ織り(手機)や西陣爪搔本綴織(爪搔)の実演を間近で見せて頂き、説明をして頂きました。

記:宝角弘枝